

はしもととしょかん こどもしんぶん 第233号

ほんのもり

2023年秋号



よみもの LJ933 『あしながおじさん 上・下』

ジーン・ウェブスター／作・絵 曽野綾子／訳 平澤朋子／絵 講談社

孤児院で育ったジェルーシャは、ある資産家に作文の才能をみとめられ、作家になる勉強をするため大学へ行けることになります。条件はひとつ。毎月手紙を送ること。ジェルーシャは大学生活でのできごとを、おもしろおかしく手紙に書いて送ります。読みやすい「大きな文字の青い鳥文庫」シリーズです。

発行：相模原市立橋本図書館
TEL: 042-770-6600
FAX: 042-770-6601
2023年10月発行

SDGs
未来都市
さがみはら



「ほんのもり」は、子どもと本をつなぐことを目的とした
橋本図書館が発行することも向けしんぶんです。



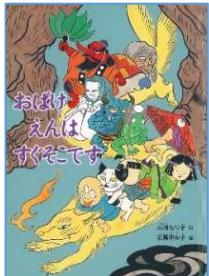
あたら はい ほん
新しく入った本のしょうかい



しょうがってうていがくねん
小学校低学年～

えほん ムラエ／紫『おばけえんはすぐそです』
山崎るり子／詩 石黒亜矢子／絵 福音館書店

ようじ
幼児～



おばけたちが通うおばけえん。ふるギツネ先生は毎日いろいろなものにばけてやってきます。園児はみつめこそうや、のっぺらぼう、ろくろっくびなど11人のおばけたち。ゆかいなおばけえんの生活がリズムのよい詩で紹介されています。



よみもの J949／ドラフ『ドアのむこうの国へのパスポート』
トンケ・ドラフト&リンデルト・クロムハウト／作

小学校中学年～

リンデ・ファース／絵 西村由美／訳 岩波書店

ラウレンゾーは、小学4年生です。担任のトム先生がいつも読んでくれる物語をみんなわくわくしながら聞いていました。

ある日、ラウレンゾーはテヤと一緒に物語の作者ラヴィニアの家をたずね、そこでかぎのかかった部屋をつけます。部屋には特別なパスポートがないと入れないとラヴィニアに言われ、クラス中その話題で持ちきりになります。



しらべるほん J78『黒部の谷の小さな山小屋』
星野秀樹／写真・文 アリス館

小学校中学年～



高い山にはさまれた黒部の谷に小さな山小屋があります。断崖絶壁の険しい山道を何時間も歩いてたどり着くような場所に建っています。毎年夏に建て直し、大雪がなだれこんで押しつぶされてしまう前に解体します。山小屋では、登山者を受け入れるほかに手作業で山道の整備もしています。その様子が黒部の大自然の美しさとともに紹介されている大迫力の写真絵本です。

えほん E／ト『ほうきぼしのまほう』
ジョー・トッドニスタントン／さく まつかわまゆみ／やく 評論社

評論社

ナイラは、朝は日の出、夜は満天の星空を見て、波の音を聞きながら眠りについていました。ところがある日、パパの仕事の都合で町に引っ越しすることに。大好きだった家から離れ、なれない場所にとまどっていたナイラですが、ある日新しい家の窓から「ほうき星」を見つけます。やがてふしきな魔法がナイラの家にひろがっていきます。

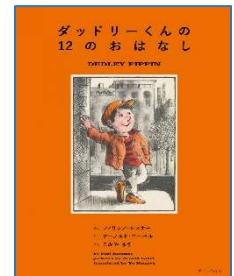


よみもの J933／レスナ『ダッドリーくんの12のおはなし』
フィリップ・レスナー／さく アーノルド・ローベル／え 小学校低学年～

こみやゆう／やく KTC 中央出版

ある年のはじめに町へひっこしてきたダッドリーくん。友だちがいないというとなりの家の男の子と、友だちがいない子だけがはいれる「友だちなしクラブ」をつくります。

ぜんぶで12の短いおはなしが入っています。



しらべるほん J36『みんなに知ってほしいヤングケアラー 1～4』
濱島淑恵／監修 ポプラ社

小学校高学年～



「ヤングケアラー」とは、高齢者や赤ちゃん、障がいや病気を持つ家族のケアをしているおおむね18才までの子どものことです。遊んだり勉強する時間がなく、心や体に大きな負担を抱えている場合があります。多くの人に知ってもらうため、体験談をふまえ詳しく紹介しています。辛い気持ちを話せる相談窓口も掲載されています。

イベントのおしらせ

おはなし会とブックトーク 2023
10/22 (日) 「ちいさい秋、み一つけた」
11:00~ (2~3歳児向け)
14:00~ (4歳児以上向け)
定員: 各回12名



親子で工作

「秋のはっぱでしおりをつくろう！」
11/15 (日) 14:00~/15:30~
対象: 4歳~小学2年生ぐらいまでの
子どもとその保護者
定員: 各回12名



※どちらも10月4日(水)から申込を受け付けます。
くわしくは図書館ホームページや館内のチラシを見てね！